

令和7年度 自己評価および学校関係者評価書

令和8年2月27日
函館市立港中学校

1 本年度の重点教育目標

子供を主語とする学びの実現	対話によるコミュニティの育成
---------------	----------------

2 本年度の取組の重点

<ul style="list-style-type: none"> 新たなデザインによる授業改革 探求学習や体験活動の充実・改善 	<ul style="list-style-type: none"> 発達支持的生徒指導を基底とした教育実践 心理的安全性を高める職員コミュニティの構築
---	--

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
① 高い思考力	授業改善 個別最適な学び ICTの適切な活用	a	個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指し、自律的に学習を進める力の育成のためのICTの活用や授業改善および外部講師を招聘した校内研修を実施した。今後、効果的な取組をさらに進める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が取り組む姿を学校公式ホームページで積極的に発信しており、学校運営についての理解が深まっている。 ICTを活用した授業改善について、CS会議を通じて発信している。
	特別支援教育 キャリア教育 幼小中大連携	b	校外外において生徒の健全な成長に向けた教育的組織（校外生活委員会等）による連携を通じ、今後はさらに体系的な整備を進める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 先生方との対話を通じ、地域を大切にしていることが感じ取ることができる。
② 深い思いやり	自主的・主体的・創造的な生徒会活動 いじめの防止 不登校生徒支援	a	校内では、生徒会が中心となり、自主的・主体的また創造的な力を生徒に身につけさせるための様々な教育活動を引き続き実施する。また、いじめ防止・不登校支援についても学級担任、サポートルーム担当教諭等と連携を密にし、取組を進める。【R7不登校児童生徒に対する支援推進事業指定校】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 全校で統一された取組が出来ていると感じる。 校内サポートルーム等、不登校対策を適切に進めており、今年度2名が教室復帰を果たした点も大きな成果と感じる。 いじめ見逃しゼロを目指して全校縦割集会を実施する等、いじめ防止のための具体的な手立てがとられている。
	コミュニティー・スクールの充実	b	これまで以上に連携を密にし、地域人材・地域の教育的素材を生かしながらCS活動を充実させる。またCSとPTAの有機的な連携がさらになされる様、地域及び社会の要請と学校教育が合致できるよう対話を深める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 管理職をはじめとする職員から、地域に対し常に適切な説明を受けており、その上で先生方の自己評価に理解を深めることができた。
③ 耐え忍ぶ力	心と命を守る教育の充実 自律した学習者の充実 (PDCAサイクルの自律的運用)	b	CSを軸に地域と学校の「子供の育てたい姿」に関するイメージを一にししながら、さらに地域全体の教育力を高めるために学校との連携を深める。地域の教育力を活用し、生徒の健全な人格形成を目指し、生涯にわたって学び続ける自律した学習者の育成を目指す。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 亀田児童館もちつき大会への中学生のボランティア協力や地域合同避難訓練等、地域と学校が一体となった取組が行われていた。 生徒と地域の交流のさらなる発展について、今後さらに具体的に取り組む必要がある課題と思われる。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。